

過酷な途上国の現実

海星高校で映画鑑賞会

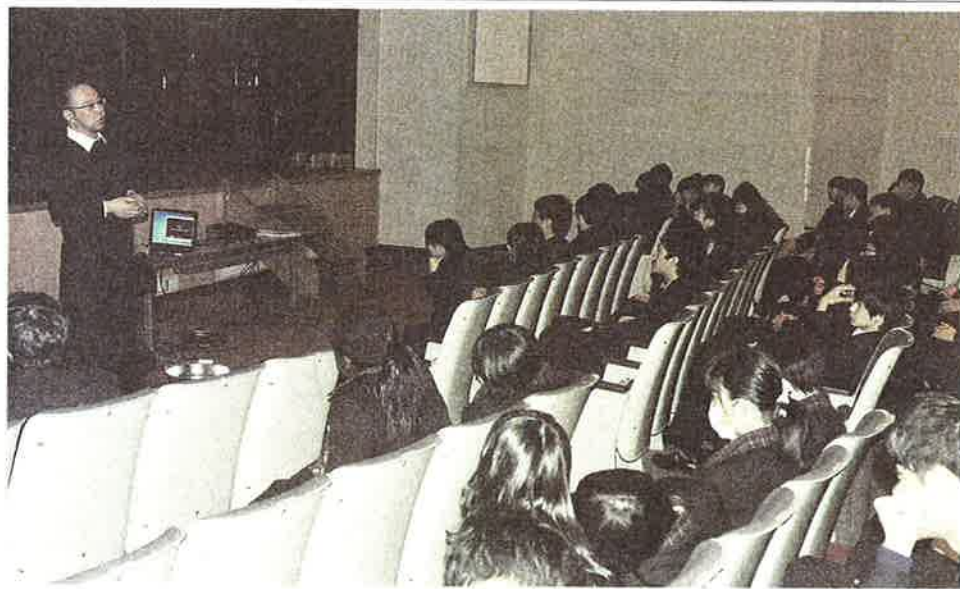
室 蘭

室蘭・海星学院高校(堺俊光校長)で16日、女性への差別撤廃、地位向上を訴える国際女性デー(3月8日)にちなんだ映画鑑賞会が開かれ、生徒たちは途上国の過酷な環境の中でも希望を持ち生きる10代の女の子たちのストーリーに心震わせた。

国際女性デーは、アメリカ・ニューヨークでの婦人参政権を要求したデモをきっかけに1975年(昭和50年)、国連が制定。同校の聖書の授業の一環で、1、

2年生149人が映画「ガール・ライジング」を鑑賞した。

貧困や早婚、暴力などの環境に置かれた9人の生きざまを通し、途上国で直面する問題とそれぞれが抱く希望が描かれ、生徒たちは真剣な表情で見入った。渡邊楓さん(1年)は「自分たちの生活や環境は恵まれている。つらく大変な境遇でも夢や目標を持ち、頑張る姿を見ると、自分に足りないものを感じた」と話した。(栗島暁浩)



途上国の過酷な環境で生きる女の子の姿が生徒の胸を打った映画鑑賞会